

第2回立花宗茂公祥月命日参列 令和8年1月15日福厳寺(柳川市)

昨年から始まった宗茂公の法要で、今回は大河ドラマ推進協議会の牧達夫会長と平岩禎一郎理事が参列しました。昨年この法要を紹介してくださった久良さんが今年も主催者側や柳川市役所の方々を紹介してくださり大変お世話になりました。ご住職から突然牧会長への来賓あいさつの指名いただき、そのなかで「大友氏顕彰会並びに大河ドラマ推進協議会と柳川の御花さんとはこれまでも交流を続けてきましたが、立花宗茂公は大友一族であり大河ドラマ化には一層の連携を深めていきたい」旨の決意を述べました。

今後は柳川市はもちろん福岡県・新宮町と大分県・大分・臼杵・津久見市ほかの行政とタッグを組みNHKへの働きかけを強めていく所存です。次に久良修二氏よりのコメントを掲載します。

1月15日、柳川藩主菩提寺福厳寺において立花宗茂公の祥月命日の384回忌の法要と大般若経転読法要が開催されました。昨年は若杉理事長をご案内、本年度は数名の方に声がけした結果大友氏顕彰会の牧名誉理事長、同会平岩理事と紙切り作家丸山紘平さんのお三方

と私が参列しました。旧大名家の先祖法要はまさに圧巻であり、旧柳川藩10万石に相應しい法要であります。※このあとインゲン豆で有名な隠元禅師や田能村直入？などの説明をされておりますが、漢字変換が出来なく私の知識不足もあり、難解です。で大変申し訳ありませんが、漢字が割愛させていただきます。



左より3人目立花家18代当主立花千月香氏、牧達夫、立花民雄氏、平岩禎一郎、久良修二氏

令和8年合同新春の集い

令和8年1月18日12:00～
14:00
以下は当日の進行表ですがほぼこの通りに進行了ましたので少しの感想も交えて報告とします。※敬称略

12:05

開会アナウンス…木下和子

主催者あいさつ…顕彰会若杉理事、推進協議会牧会長

若杉理事は、昨年入会した大友直樹会員の情報を紹介、「宮城県に多い大友さんは義統公のご子孫のようです。今年中に牧さんと行くつもり」との考えを述べた。大多数が驚いた様子。

同会長は、15日に柳川福厳寺で開催された「宗茂公祥月命

日」に参列し、柳川市では行政が大河ドラマ推進活動の核と

なっており、今後は福岡県とも連携し広域的に活動していく事を報告。さっそく2月には県知事らとNHKに再度陳情に行く。願わくは大分県・市には事務局の支援がほしい。発足当初から商工会議所にもお願いしているが、未だに実現していない。※経済支援はいただいているあいさつ／大分県副知事・桑田龍太郎 乾杯の音頭／顕彰会理事及び推進協理事

平岩禎一郎

司会(木下和子)の進行により参加者からは、自己紹介と今年の抱負を席順でひと言語つていただきたい。持ち時間を守っていただき順調に進行した。なお、藤田理事は「宗麟公」のカラオケを披露した。時間にゆとりが生まれ各々懇親が出来たようだ。その中で若杉はNHK大分放送局の朝鍋局長に、先ほど稲葉会員が話したように「今年の大河ドラマで宗麟が大坂城に赴いた際のエピソード、その後の九州征伐で秀長が大分に来た事実を深く取り上げ、ゆかりの地では現在の「大友館の発掘状況」を取材してもらいたい旨をお願いした。

13.. 50〜お礼のことば／佐藤副理事長

今年の抱負のひとつとして例会の在り方を検討、初心に帰り『大友氏の風景』のゼロ号から順次基礎的な記事を拾い上げ再勉強していきたいとの考えを述べた。確かにここ数年、牧・若杉・佐藤の活動報告が多くなっており、勉強の時間が多少削られていた感もぬぐえない。過去の「大友氏の風景」の記事



を取り上げるといふのは三役共通の思いでもある。1時間通りに終了、料理が余ったので15分ほど役員同士この会の感想を述べあった。

左から 若杉孝宏理事長、桑田龍太郎大分副県知事、大河ドラマ推進協会会長牧達夫

大友宗麟・立花宗茂の大河ドラマ誘致の要望書提示



東京渋谷NHK本部放送センター

令和8年2月1日

参加者：佐藤大分県知事、西岡臼杵市長、石川津久見市長、牧大河ドラマ推進協議会会長、秋吉神奈川大分県人会会長

NHK・藤沢コンテンツ制作局局長、杉山コンテンツ制作局第3センター長、菓子コンテンツ制作局第3センター部長

参加者各々から強い要望やこれまでの経緯を伝え、NHK側も我々の熱意を感じたようで十分検討する旨の発言がありました。雑談の中で私(牧)が先日1月15日に立花宗茂公384回忌法要に参列し、その際、今後は連携してNHKに要望していくこととの合意を得たことを伝え、また、佐藤大分県知事からは、福岡県知事とも協力していく話が出来ている旨を伝えました。



「大友宗麟・立花宗茂」

NHK 大河ドラマ誘致要望書

ヨーロッパにおける戦国大名関連の文献・絵画・版画等の史料調査で、最も多くの遺物を確認できるのは、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康など、日本史上で著名かつ評価の高い人物ではありません。その人物とは、16世紀のヨーロッパ史との関わりにおいて最も影響を与えたと言われ、「豊後王」とも表記される大友義鎮（のちの宗麟）です。

戦国時代、ほとんどの大名が国盗り合戦に明け暮れるなか、「戦国大名」「日本」の枠を超え、豊後の国王として、いち早くグローバルな視点でアジア・ヨーロッパ諸国との外交に着手した異色のアジア大名「大友宗麟」の名が、当時の日本の最も有力な人物としてヨーロッパ史の様々な記録に刻まれているのです。

こうした背景のもと、豊後府内（大分市）は西洋医学、西洋音楽など南蛮文化発祥の地とされ、宗麟によって広く世界に目を向けた南蛮文化が栄える国際貿易都市として発展しています。

また、臼杵及び津久見は、当時から重要な港湾都市であり、南蛮・キリシタン文化の浸透に重要な役割を果たしました。宗麟は臼杵城（丹生島城）を政治拠点とし、キリシタン大名として臼杵で洗礼を受けるなど、現在の臼杵の歴史的景観の礎を築き、晩年は、津久見を最後の拠点として、キリスト教による理想の国づくりを目指しました。

大友家臣団も、戸次鑑連、高橋紹運、立花宗茂など後世に名を残す魅力ある武将たちが多く、さらに、ザビエルをはじめとする宣教師、日本初の西洋式病院を創設したルイス・デ・アルメイダらとの交流は、大友氏、豊後を描くことでしか表現できないドラマとなります。

さらに、大友氏ゆかりの地は、九州を中心に、家系のルーツである神奈川・小田原や文化交流を積極的に行った大阪・堺など、全国各地に点在しており、九州のみならず全国の様々な地域の方々に関心を持っていただけると確信しています。

地元では、平成23年に「NPO 法人大友氏顕彰会」、その後間もなく「NHK 大河ドラマ『大友宗麟』誘致推進協議会」が設立され、これまで、「大友氏顕彰フォーラム」を25回、「大野川合戦まつり」を21回、「宗麟公まつり」を10回開催するなど多彩なイベントが実施されるとともに、大友氏を題材とした小説が数多く出版されるなど大河ドラマ誘致に向けた機運の醸成が進んでいます。

さらに、「宗麟生誕500年」にあたる2030年に向け様々な取組を進めており、この大きな節目の年までに大河ドラマ誘致を実現することができれば、観光振興や地域活性化の起爆剤になると強く期待しています。

こうした地域の取組や歴史的な魅力を踏まえ、戦国諸大名のなかでいち早くアジア・ヨーロッパ諸国と交易し、進取の気性で大航海時代を生き抜いた九州六か国の大大名・大友宗麟から、大友家臣として下剋上の時代に最後まで武士魂を貫き、秀吉から「西国一の武将」と称され、柳川城主となり、関ヶ原の敗戦から唯一大名に返り咲いた義と雄の武将・立花宗茂までを描いた大河ドラマ誘致への熱い思いをご理解いただき、是非、取りあげていただきますよう、よろしくお願いたします。

令和 8 年 2 月 2 日

大分県知事 佐藤 樹一郎

臼杵市長 西岡 隆

津久見市長 石川 正史

NHK 大河ドラマ「大友宗麟」誘致推進協議会 会長 牧 達夫

『府内古図から読み解く二階崩れの変』 レジュメより

1月15日、宗茂公法要と重なったので若杉はこちらを優先しました。「二階崩れの変」に関しては何回も触れており、あまりこだわりのない方には食傷気味だと思えますが、発表する度10%くらいは新解釈を入れています。ただ例会やフォーラム参加者、また『大友氏の風景』の購読者以外は会員でも案外ご存じないのではないかと思われるますので、是非お読みください。今回は「鶴崎文化研究会」での講演内容です。私はこの団体の会員でもありません。

事件が起きた当時から476年、虚実ないませの説が語られてきた。いまだに有力な説がない中、江戸時代前期に描かれたと伝わる「府内古図」にひとつの答えを見いだした。言うまでもなく素人の推測でそれを証明する一次史料はない。状況証拠からの考察だが当たらずとも遠からずとの思いである。

はじめに従来からの説を再確認しておこう

天文19年の2月11日、義鑑は重臣の斎藤播磨守、小佐井大和守、津久見美作守、田口玄蕃允（新蔵人）を召して、幼いころから帝王学を学ばせてきた嫡男義鎮に替え、側室の子・塩市丸を嫡子に

立てると申し渡した。これを聞いた各々は「義鑑公は天性優れたところが嫡子です。なぜ末子(塩市丸)にお譲りになりますか?」と、異口同音に申し上げた。

これを聞いた義鑑ははなはだ機嫌を損ない、その座を立ってしまった。自室に戻った義鑑は、思いがけない強い反発に腹の虫が治まらず、また 4 人を呼び出した。4 人のうち、斎藤と小佐井は疑いもなく伺候したところ、近習の者に討たれた。これを知った津久見と田口は「いざれ我が身にも討手がくるだろう」ということで、二人して夜中に殿中に向かった。

二人は塩市丸とその母や侍女たちを切り殺し、直ちに義鑑のいる寢室に向かい、義鑑に重傷を負わせた(2日後死亡)。しかし二人は駆け付けた近習により討たれた。

その近習とは、城後(田北)左近将監鑑興(忠)ら感状(一次史料)にある人物で、当然ながら実在である。2月15日、同文の感状を受けているのは、植(植)田少輔、田原近江守(親賢か)、河野伝兵衛尉である。事件当日浜脇で湯治中だった義鑑は、報告を受け急遽府内に戻り佐伯惟教に命じて混乱を迅速に収めたという。

その事件勃発直後、身の危険を感じた入田丹後守親誠が居城・津賀牟礼城に引き籠ったのはそれ相応の自覚があったためであろう。義鑑は戸次鑑連、斎藤鎮実、

詫磨鑑秀等に命じてこれを討たしめた。これに先立ち義鑑は領国を接する志賀親子に入田に加担することのないよう起請文を与えた(文面は割愛)。

一方、この変で府内のまち中ではかなりの死者が出たらしく、親から子への相続を認める義鎮の安堵状が15、18日に出ています。斎藤鎮実のほか上野宮千代、久保市松、三原和泉入道(種栄)など。

疑問① 嫡男として育てて来た義鎮の廃嫡を決めた理由

義鎮 15 歳ころ、貿易のため沖の浜に停泊していたジャンク船のポルトガル人を殺せば貿易品がただで手に入ると乗組員からささやかれ、実行しようとした父義鑑に諫言し止めさせた。晩年宗麟自身か思い出として宣教師に語ったというからほぼ事実だろう。その思慮深さに将来院政を布こうとしていた義鑑は危機を感じた(安部龍太郎『宗麟の海』)。

疑問② 義鑑は短気でありまた疑り深い性格であったという。しかし、重臣に初めて告げる事柄(家督相続の変更)に反対され、その直後に殺意を持つものだろうか?

大友家では重要事項の決定は当主の出席のもと重臣会議で議論されるが、その議題は事前に当主と加判衆に伝えられお

互い納得したうえで決定される。義鑑が逆上したのは「事前に伝えていたのに会議の席で反対された」からである。

両者に事前に伝える役職を「申次・聞き次」という。それから推測すれば事件の原因を作ったのは、申次職が両者に知らせなかったからである。

当時の申次職は田北鑑生と津久見(左馬之助?)だったらしい。この二人がその役職だったことは事件の3年前に筑後の田尻鑑(親)種親子が相続を認めてもらったお礼に府内館を訪れた際、接待した重臣(申次)としてこの二人の名前が記録されていることで証明される。

彼らが知らせなかったのは上司の指示があったと考えるのが自然。その数年前、吉岡長増が加判衆を解かれ不遇をかこっていた。そのころ義鑑の側室に取り入っていた入田親誠が台頭、側室の子が当主になれば重臣筆頭は入田。将来を危惧した吉岡の画策だった可能性は?

疑問③ 事件当日、義鑑は浜脇に湯治中だった。偶然か?

通説ではまた、父義鑑から進められ浜脇に湯治に行ったということになっているが、アリバイ工作の可能性は考えられないか。このように用意周到だったはずだが大いなる禍根となるのは親誠の子義実をゆるしたことである。

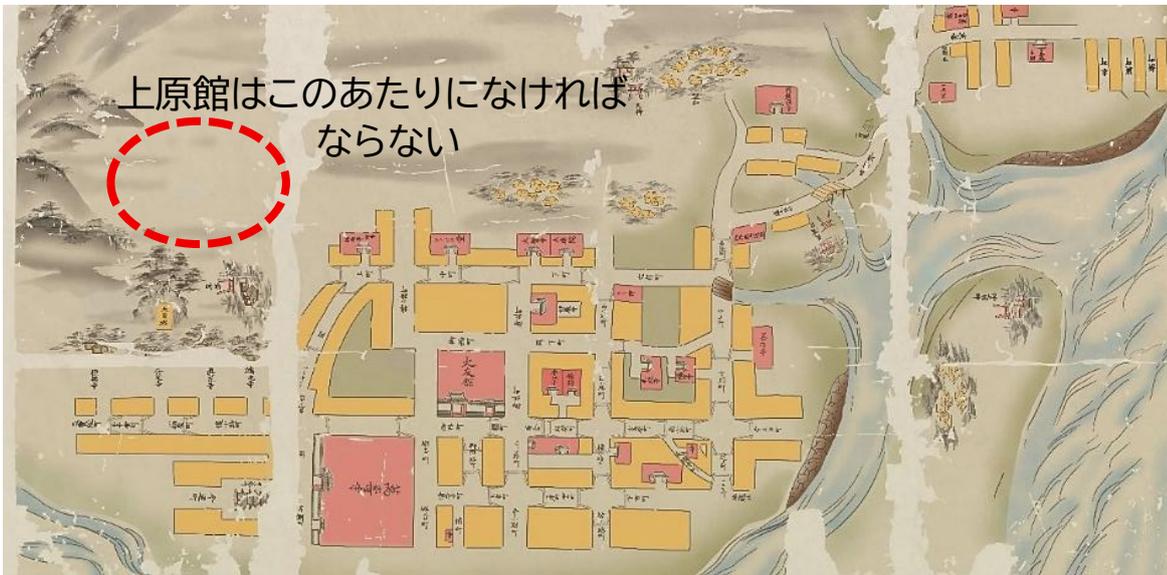
疑問④ 府内古図に上原館が描かれていない疑問。

江戸時代から民間に伝わる3点の府内古図があるが元は同じらしい。従来学会では半信半疑で重視されてこなかったが1990年前後に見直し、要所をトレンチ(試掘)したところ十分に信ぴょう性が出てきた。本格的に発掘したところ、国の重要指定史跡になった。ところが7年前に私は肝心の上原館が描かれていないことに気が付いた。

なぜないか?その結論は「この古図の描写年代は1573年以降義統が家督継承してのち大友家が最も繁栄した時期(78年)のもので、当時の府内の人々は20数年前に存在した上原館は記憶になかった」ということになる。※事件後緘口令が布かれたか?

さらに、1586年末島津軍が府内に侵攻してきた際、義統は仙石秀久とともにその館跡地に急ごしらえの陣屋を造った。この模様を宣教師のフロイスは自著『日本史』で「嫡子(義統)は上原と称する場所に守備の為の陣を築いたが、獣小屋同然の粗末さ」だった」とある。「上原」という地名を宣教師が知らないということは、1551年8月に府内館を訪れたフランシスコ・ザビエルも知らなかったということになり、ザビエルを迎えた府内館とは上原館ではなく、現在の位

置の府内館ということができる。



【まとめ】

すなわち、事件直後上原館は影も形もなく破却され、人々の記憶も消されたのである。

「二階崩れの変」の黒幕＝首謀者は大友宗麟義鎮であり、加担したのは吉岡長増、田北鑑生、津久見左馬之助(美作守)。義鑑条々の加判衆の5人のサインのうち吉岡と田北は義鑑死亡と同時に加判衆に就任したのである。津久見は襲撃した人物と同一で討ち取られた。

義鎮は父親殺しの汚名を着せられたくなかったし、また自分の記憶も消したかった。さらに6年後までの二度の謀反事件も何らかの関連はあり、そのなかの何人かは事実をつかんでいた：のではないかと邪推もはたらく。犯人に仕立てた入田親誠の子義実の処置をゆるした宗麟の寛大さが大友氏滅亡の遠因となったといえよう。

さらに言えば、入田義実は「父は冤罪」と終生信じ続けたに違いない。この義実の思いを想像し得なかった宗麟の甘さと言ってもいい。

以上断定的に表現しましたが、一次史料で確認された事柄以外は推測であることをご承知おき願います。

改稿/令和8年1月15日

大友氏顕彰会理事長 若杉孝宏

● 令和 8 年 2 月の定例学習会

日時／令和 8 年 2 月 14 日 (土)

13 時 30 分から 15 時 30 分

会場／大友氏遺跡内

南蛮 B V N G O 交流館研修棟

参加者 20 名

佐藤弘俊副理事長司会のもと、今年一回目の定例学習会が行われた。

● 冒頭のインフォメーション、伝達事項
佐藤副理事長

・ 2 月 2 日 NHK 大河ドラマ「大友宗麟」
誘致推進陳情報告(大分合同新聞)及び
スケジュール表にて今年の行事予定伝
達

・ 1 / 17 (土) 戦国の病院とボランティア
ア発祥の記事紹介(朝日新聞全国版)
アルメイダ病院ほか記念碑、銅像紹介
・ 会員呉藤氏の大分合同新聞「読者の声」
投稿の紹介『「語り部」になりたい』他

同日、大河ドラマ推進協議会の牧会長
と若杉理事長は在京県人会・大分法人
会の新年会と重なったので 30 分遅れ
で出席、その模様はこの後、記載しま
す。

● 発表

① 今年の干支にちなんで「馬と人とのか
かわり合い」〜信長から宗麟に送られ
たという荒馬「鬼月毛」とは〜

発表者：佐藤副理事長

豊後を中心に古代からの人間と馬との
つきあいについての話。馬を飼育するに
は「牧」が非常に重要だった。馬と弓矢の
扱いに慣れているものが「牧」の経営に
携わり、その技術を高め、優秀な馬を手
に入れた。こうして武力を身につけた
人々が武士団を形成し、武士政権「鎌倉
幕府」を樹立。豊後南部にも「牧」があり、
強い武士団が形成されていた。



名馬「鬼月毛」想像図

また武芸の訓練から始まった武家の儀
礼、年中行事が犬追物、流鏝馬、笠懸です。
戦国時代、大友氏の「犬追物」の記録を見
ると義鎮時代に活躍する有名な加判衆や
重臣たちの名前が出てきて大変興味深い。
織田信長が稲葉山城攻略に成功し、そ
の地名を「岐阜」と改めた。この時、大友
宗麟はお祝いに大量の金貨を『赤壁賦図
盆』にのせ、信長に送った。大いに喜んだ
信長は、その返礼品として「鬼月毛」と呼
ばれる白い荒馬を宗麟に送る。宗麟と信
長の関係を知ることのできる逸話である。
これは、金貨を送ったから馬をもらつ
たという簡単な話ではない。宗麟はかな
り以前から、イエズス会の中央布教に対
しその援助に尽力している。援助し続け
ていた將軍・義輝が暗殺されたあと、次
代の天下人、盟主は織田信長と判断した
宗麟とイエズス会は信長支援に奔走。「天
下布武」の理念が、宗麟やイエズス会の
尽力において実行されたということ。こ
の名馬「鬼月毛」の返礼の意味は、宗麟が
信長の全国制覇を目的とした上洛準備を
早期から熟知し、支援していたことの一
つの証左である。

あと馬で忘れてならないのは、道雪が
乗っていたという、漆黒の巨大馬『戸次
黒』である。大河ドラマ化が実現すれば
必ず人気が出る「登場人物」だ。



『戸次黒』のイメージ図

②昭和100年心に刻まれた日本人ベスト100人(テレビ番組ランキング)を参考に昭和100年と自分史の振り返り(発表者:佐藤副理事長)

今年からの定例学習会は、参加者たちが分かりやすく、参加型で、楽しく面白いものを提供したいと考えています。その取り組みとしての企画発表です。

年末に『昭和100年心に刻まれた日本人ベスト100人』と題したテレビ番組が放送されていました。100人のリストが映像とともに説明、紹介されており、アンケートに答えた方のインタビューもそれぞれの思いが語られ、大変おもしろい番組でした。是非、これを定例学

習会で参加者の皆さんにもやってもらおうと考え、100人のリストと10人分の空白リストを配り、参加者それぞれの『昭和100年心に刻まれた日本人』を考え書いてもらい、発表していただきました。



ルールは簡単です。

- ・日本人であること
- ・自分に影響を与えた**父母や恩師**以外の昭和100年に関連する著名人、多くの方が知っている人、また知らしめた隠れた各界の人物。
- ・10人でなくても、一人でも数名でも必ずその人物に対する自分の思い、思

い出を書き込む。メモする。

この作業をすることで、自分がいつその人物を知り、どういう思いになったか考えたか、その時のことを振り返ることが出来ます。これは自分史、自分の青春や人生を振り返ることもあり、その時の思い出や思いを言葉にする練習になります。

日頃、私たちは人の歴史ばかり追いかけています。たまには自分の歴史を振り返りましょう。さらには歴史については本や史実だけを伝えるのではなく、自分はどう思う、こういうことが言えるのではないかという考えを常に持つていてほしいという願いから、まず自分の歴史であったなら、主観的に考えが出てきて、言葉にしやすいのではないかという思いもあり、とりあえずやってみました。

発表者からは意外な人物名が飛び交い、それにまつわるお話も皆さん独特で、大変おもしろい結果となりました。時間も足りず、この発表については**3月の定例学習会で発表してもらうことになりました**。さつそく3月末発行のこの会報に掲載することになりました。紙数の制限もあり、とりあえず集まった分の一例を挙げてみました。そこで8年秋発行の『大友氏の風景(14)』に掲載したいと思えます。4月末締め切り。原則データ入稿にて。

在京大分県人会・法人会新年会

2月14日12:00〜 ホルトホール

あいにく定例学習会と重なってしまい牧会長と若杉理事長二人が出席。主催者、来賓のあいさつのあと、主催者に事情を聞いてもらい参加者の筆頭で牧会長があいさつしました。

2月1日のNHK訪問を報告し、4月には福岡県知事も同席願って再度訪問する予定など、着々と成果が感じられる旨を皆さんに訴えました。懇親会の頭でしたから皆さん耳を傾けておられ大変有意義でした。



在京大分県人会 法人会員が交流

大分市で70人

在京大分県人会の法人会員交流会が14日、大分市金池南のJCOMホルトホール大分であった。首都圏の企業関係者のほか、県内の自治体や団体から約70人が集まった。

秦喜秋会長(80)「東京都が『懇親を深めよう』とあいさつ。尾野賢治副知事が祝辞を述べた。

大分合同新聞社マーケティング統括局の後藤誠局長、宇佐神宮(宇佐市)の小野崇之宮司が大分で話題になったニュースなどを紹介した。

大分にゆかりのある法人会員の親睦を目的に年2回、開いている。

(羽山豊平)



約70人が参加14日、大分市



臼杵支部新春懇談会

今年の臼杵支部の新春懇談会を2月6日の木曜日、臼杵市社会福祉センターで午後6時より開催しました。臼杵市から西岡隆市長をはじめ日高文化財課長や臼杵市歴史資料館の油布館長、臼杵・津久見の史談会の会長と牧達夫顕彰会名誉理事長など総勢25名が参加し自己紹介を



含め和気あいあい懇談をいたしました。宗麟公生誕500年に向けた取り組みなどについても話し合われ、今後のさらなる活動を進める事を確認したところです。

「第2回宗麟杯弓道大会」協賛

昨年から宗麟の冠大会というので協賛しています。そのみならず「1%応援事業」へのご協力をいただいております。今年も藤田理事が来賓として参加、総勢28名の大会でした。



■3月定例学習会報告

日時／7日13…30

会場／大友氏遺跡跡…南蛮B V N G O

交流館研修棟

① あいさつ及び8年度計画概要(佐藤副理事長作成)、4月の予定紹介(若杉孝宏)

イ、大河ドラマ推進協会長報告(牧達夫)

広域連合協力の進展具合。1月の柳川の福厳寺で行われた宗茂公の供養参列の際、柳川市長と福岡県知事まで含めたNHK訪問の計画を副市長と具体案を話し合った。今後は要望書の内容を詰めるため2回ほど柳川まで出向く可能性が生じる。時間と経費節約のため平岩理事に同行をお願いした。また、今年秋口に宮城県の大友さん訪問の計画であること、その中で東北や北海道まで大友さんが多いのでテレビ視聴範囲が広がるメリットを訴えたい。この2、3年が勝負だと考えている。

ロ、続いて若杉理事長が、会員の大友直樹さんから送られてきた宮城のラジオで「宮城、特に名取・岩沼に大友さんが多い理由を放送」された録音を紹介した。これをきっかけにOBSや大分合同新聞などマスコミに情報提供し取り上げてもらうよう努力することが肝要である。

最後に「10～11月のフォーラムのテーマを義統にしたい」旨を提案した。2回

目の配流地、秋田までは大分の記録にあるが、その地での状況が皆無であり、それを出張して明らかにしたい。一応名取市史に記録(会報73号で紹介済み)があるが、現地で大友直樹さんが本家筋の現当主を紹介してくれるらしいので出来得れば来県願いたい。が、予算の見通しが立たないので何とも言えない。

また、大友義統と伊達政宗は小田原征伐時に知己を得たのではないか、政宗が家臣の支倉常長をヨーロッパに派遣したのは、義統から貿易のうま味を聞いたからとの推測を話した。ドラマ化の場合その程度の脚色は許されるはずだ。参加者も夢がどんどん広がっていくようだった。ハ、研修バス旅行提案／延岡無鹿町の宗麟本陣跡↓川南町・木城町主催「宗麟供養祭」参列及び日向高城跡見学を計画。来年が合戦460年につき大々的にするらしく今年は見学の感覚でもいいかな、との思いを伝えた。

ついでに大分県よりプロジェクター贈呈の件を若杉が報告、3月12日藤田さんと出席した。今後はこの例会で自由に使用できるので楽しみである。

8年度研修バス旅行概要・予算8000円以内(16～20名・バス代・献酒・昼食含む)



出席者(14名)／青井勝久、安部可人、植木直正、江藤孝文、大塚雄一郎、釘宮亮二、工藤大輝、呉藤秀昭、廣岡鎮也、平岩禎一郎、藤田賢治、牧達夫、藪紘一、若杉孝宏

日向合戦供養祭参列と高城跡見学案

とき 11月12日(日帰り) 8:00(東九州自動車道)〜9:20着・北川「はゆま」(トイレ休憩)〜(10号線)〜9:50着「宗麟本陣跡」10:10発(10号)〜南延岡IC〜11:10着「宗麟原・供養祭参列」・式典・直会(昼食)13:00発〜13:20着・高城跡見学・14:00発〜高城合戦場跡(15分間)〜15:30着・日知屋城跡・大御神社 16:10発〜16:50道の駅「はゆま」17:10〜18:15大分駅着

② 戦国時代に武士道はあったのか、豊前六人衆に見る

最高齢会員安部可人さんによる久々の発表。柴田紹安、野仲鎮兼、仲間統胤、また大友氏が弱体化した豊前の仕置に中津に入った黒田如水・長政親子と城井(宇都宮)鎮房の例を出してほぼ30年間にわたる出来事を講義した。大内氏滅亡後本格的に豊前経営に乗り出した宗麟に抵抗したのが野仲重兼。その心意気に宗麟は馬と「鎮」を与えて遇した。それでものち野仲は幾度か謀反、豊前を掌握するのに彼が必要だった。宗麟の甘さはここにもある。しかし、実利一辺倒だった戦国時代、大友宗麟の人道主義は武士道精神の意識はなかったが通じるものはあっただろう。私見だが武士のあるべき姿は畠山重忠にはじまり、鎌倉武士は実利より名誉を

重視した。下剋上の戦国時代は実利を重んじたが、一方で名誉も重んじる空気はあった。「武士道」は江戸時代の儒教思想と合体して生まれた。代表は佐賀の葉隠れ精神「武士は死ぬこととみたり」か。

② 語り合おう！昭和100年、あなたの心に刻んだ日本人ベスト10

1月例会で佐藤副理事長提案の途中報告。10人挙げなくても結構、参加者全員に発言をお願いした(敬称略)。これは秋に発行予定の『大友新風景(14)』に掲載予定です。とりあえず一人でもいいので発表してもらいました。字数の関係で名前とひと言。

◎江藤孝文／「飢餓海峡」の水上勉。それ以降本に興味を抱く。◎呉藤秀昭／小泉純一郎元首相、現役時代、直接お会いした。◎工藤大輝／安倍晋三と細川護熙の元首相。自分の趣味は系図調べ。お二人のルーツを知ってこの道に入った。◎大塚雄一郎／司馬遼太郎。「竜馬はゆく」や「坂の上の雲」等彼の全作品を読破。◎植木直正／まだ考えていないが、植木姓のルーツが熊本ではないかとの質問が出たので「そうだ」と、西大分に多い。◎藤田賢治／若いころ観戦した長嶋茂雄、「全打席ホームラン」で強烈な記憶が残る。◎平岩禎一郎／ダントツで平松守

彦元大分県知事。「グローバルに考えてロ―カルに行動せよ」。府内城お堀の東側公園にある上田保と木下郁の銅像に平松守彦の像も加えるべき。◎藪紘一／山岡荘八。「織田信長」を三巻著した。従来の信長像を一変させた。彼の作品は全部読んだ。◎廣岡鎮也／重光葵。一応名前のみ挙げた。◎青井勝久／遠藤幸雄。1964年の東京オリンピックの体操で複数の金メダル。もう一人は瀬島龍三。伊藤忠商事で会長を歴任、国鉄の民営化に力を注いだ。◎牧達夫／石原裕次郎。大学時代、明治の先輩小林旭に会いに行つたところ不在で偶然石原裕次郎に会えた。事情を言ふと「また会おうな」と、非常に気さくなスター。厚生労働省出身の村木厚子。全国老人クラブの会長で昨年まで自分は副会長だった関係で近いうちまた会う。◎若杉孝宏／山岡荘八。藪さんの感想に同感。20歳代「徳川家康」全巻を読み上げた。小説家はあらゆるジャンル、あらゆる階層の人間を熟知したうえで、当時の人物を描き分け自分の世界を創り出す。歴史小説の奥深さを初めて知った。

※8年秋発行予定の『大友氏の風景(14)』に掲載しますので会員各位にご応募をお勧めします。ただし原稿はデータでメール送信、5月末日までお願いいたします。

	人物名	メモ・自分史との関り、想い
1	山岡 荘八	昭和 40 年代、サラリーマンのバイブルと言われた『徳川家康』。それまでの家康像をがらりと変えた。歴史小説の神髄と言ってもいい。作家は時代考証を自らやり、人間と社会のすべてを自分の世界に作り上げる神業的な能力が必要だと知る。所詮つくり話だとの意見には同意しかねる。
2	山崎 豊子	『大地の子』に感銘。大陸に置き去りされた日本人孤児。周囲から「小日本鬼子」を育てる夫婦は嫌がらせを受けるが愛情をもって守る姿に中国人の器の大きさを知らされた。山崎は胡耀邦首相の協力を取り付け 4 年以上かけたその取材力と時代に対する深い洞察力は常人の及ぶところではない。
3	半藤 一利	『昭和史』を語るなら彼の出版物。中学生時に終戦を迎えた。当時ほとんどの国民が軍国の母・父・少年であったが終戦直後は手のひらを返したようになった。その反省から後世に語り継ぐことが自分の使命だと悟り文筆活動を通して平和の尊さを訴え続けて来た。真のリベラリストといえよう。
4	堀 悌吉	山本五十六の大親友。明治 16 年杵築市出身。天下の秀才を集める海軍兵学校の同期生は「神様の傑作のひとつ堀の頭脳」と畏敬せしめるほどの英才だった。軍務局長時代、部下の報告を受けながら山積みの決裁箱を空にしたという。「戦争は明らかに悪であり、凶であり、醜であり災いである」
5	村山 富市	本人の意思ではなく首相になったのは歴代中彼のみ。思想政治理念を超えた清廉潔白の人柄がそうさせた。1 年余りで退陣したが在任中阪神大震災に見舞われ、すべての責任は自分がとるからと迅速な対応を指示した。国会議員を辞めても生活態度は変わらず自宅の改修もずいぶん後に実施した。
6	立花 隆	長崎県出身 1940 年生。「知の巨人」と称されたジャーナリスト。田中角栄の金権政治にメスを入れ、宇宙、化学、脳死などあらゆる分野で 100 冊以上の著書を残した。そのようにさまざまな顔を持つ「日本の良識」ともいわれた人である。こうしたジャーナリストは今後しばらくでないだろう。
7	姫野 良平	「リベラリスト姫野良平」。晩年の彼を知る人たちは彼をこう呼んだ。復員後大分合同新聞社に入社、数年後には編集局長に。のち独立して「アドバンス大分」を設立。私がこの社に入社して現在がある。当時、選挙関連の仕事は共産党以外右から左まで立候補者はすべて相談に。あだ名はそれに由来
8	南里 俊策	『月間アドバンス大分』の経済コラム「二豊経済夜話」を担当した大分合同新聞社の阿保改名氏。彼はほぼ二十年余にわたり大分合同新聞の「東西南北」を独りで書き続けた稀代のコラムニストである。「軽妙洒脱、風刺や皮肉の効いたコラムは実に爽快かつ笑いも含んでいた。時に皮肉を批判された
9	田北 学	『増補訂正大友史料 33 巻』著作者。大分経済専門学校教授の傍ら大友氏の研究に生涯を捧げた。昭和 3 年、同族の大久保静平から『田北氏小志』が贈られてきたことが自分の先祖を調べるきっかけとなった。素人でありながらほぼ四十年間の努力はその後の研究者の史資料として大変重宝がられた。
10	大久保 静平	父の実家城後田北氏の本家の次男で七高の教授時代、あるきっかけで先祖を調べることに。それからは年に 1、2 回日豊本線で帰郷する度日向合戦や島津侵攻などに思いをはせた。彼とは竹馬の友の私の伯父・泰が備忘録を残し、そのおかげで大友氏の研究にのめりこむことになり現在の自分がある。